





慰
心
み
式

神
懸
り
の




配属先の本丸



俺を顕現した
審神者は

人の子に化けた
怪異だった



正体に
気づいた俺を
主は許さず



回外していないか

裏切つては
いないかと

試すように
荒々しく抱かれる日々





しかし人の身は
不思議なもので

恐れや
惨めさといった感情は
徐々に鈍くなっていき...



いつしか
この扱いにも慣れ……

飽きました





主が気まぐれなもの
はわかっていただけ

はまー！

流石に度が過ぎる...

最初はついに刀解されるのかと身構えていたものの



間に呼ばれなくなつた以外主の様子に変化は



一ヶ月が過ぎる頃には怒りが募りだしていた

まさか本当にただ飽きただけなのか？

モヤモヤ

この名刀に？！



怒りの理由はそれだけではない

はまはまはま...



散々弄ばれた
身体が

熱を持って
仕方がない





すぐに欲求が湧きあがるくせに

頭は妙に冷静で

物足りない



もっとな

もっとな

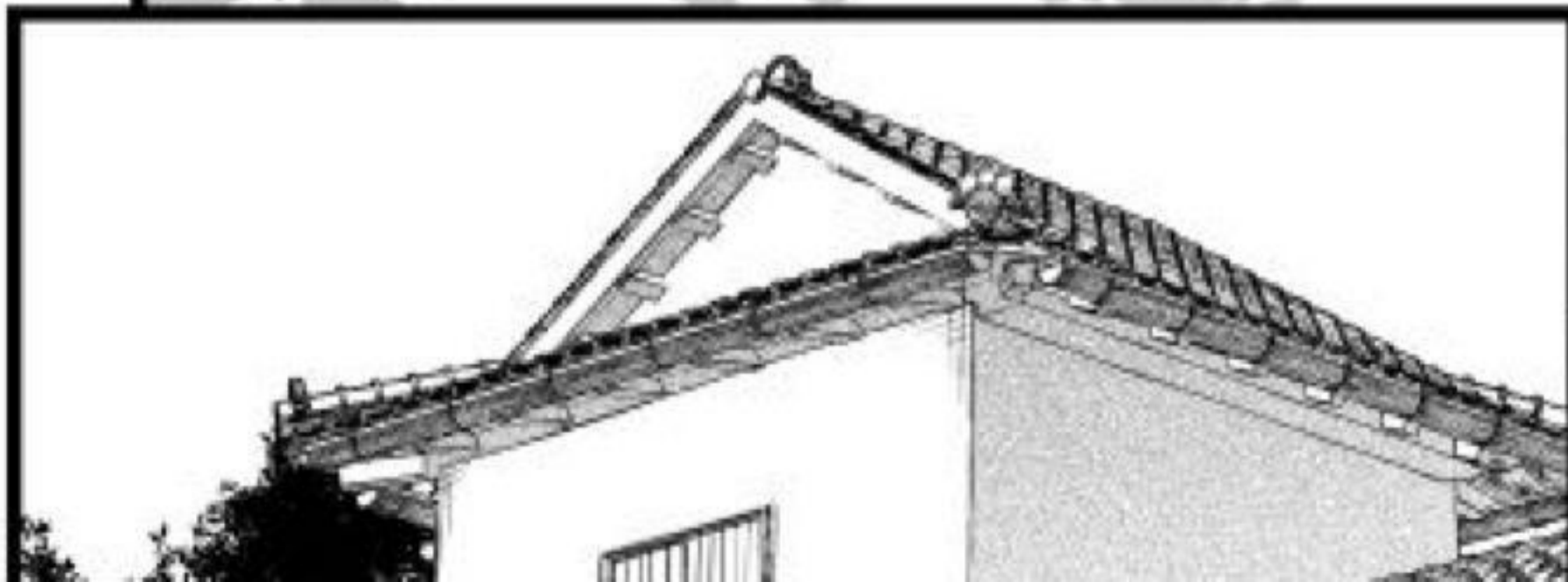


はあ

はあ



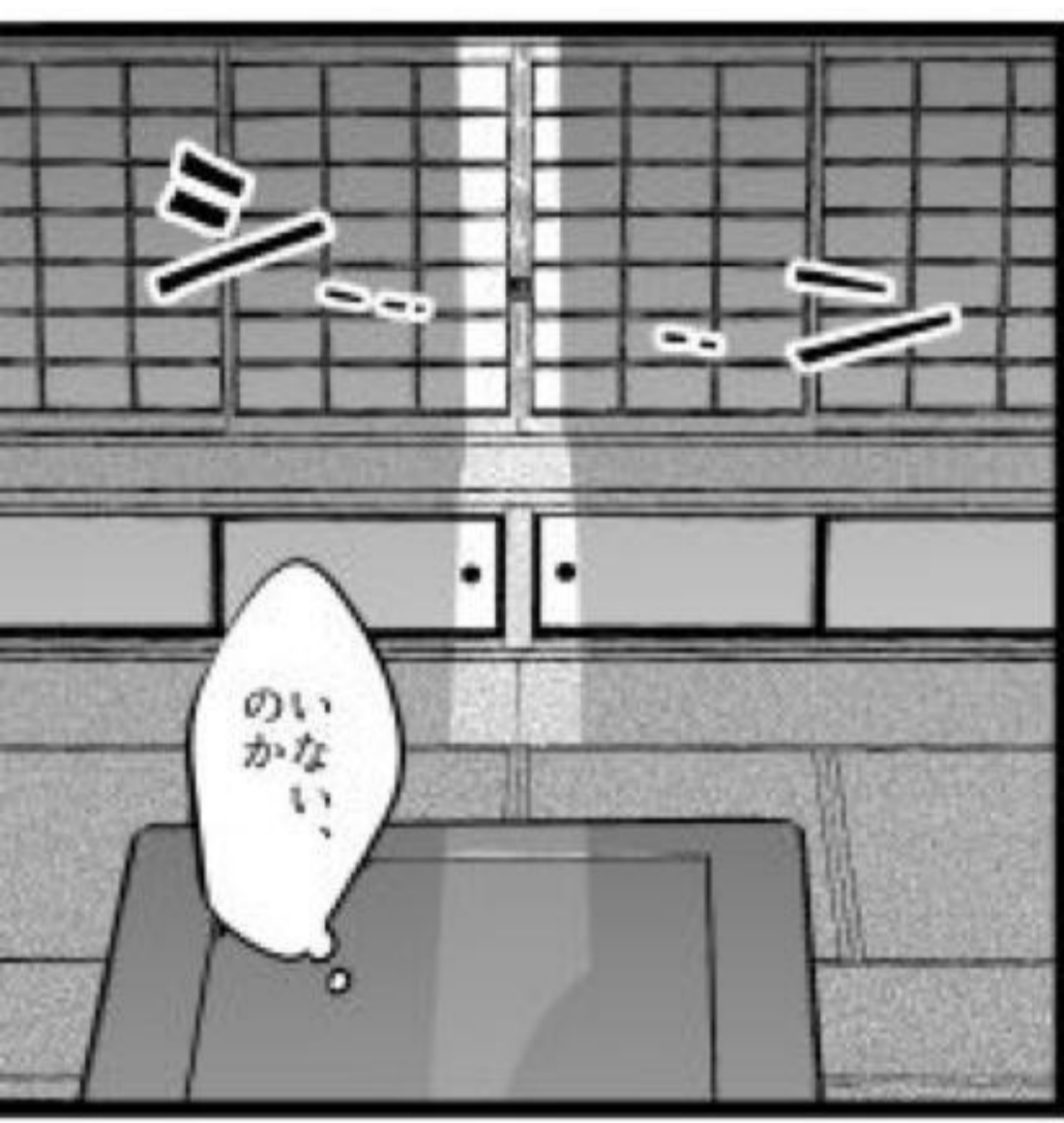
何をして
いるんだて
俺は



そしてまた日は過ぎていき...

適当な用事を探して

主の部屋まで来てしまった



のいない



また怒りを買うかもしれないが

不明瞭なままに
いるよりはマシだ

主

少し良いか?



スス...



ソク



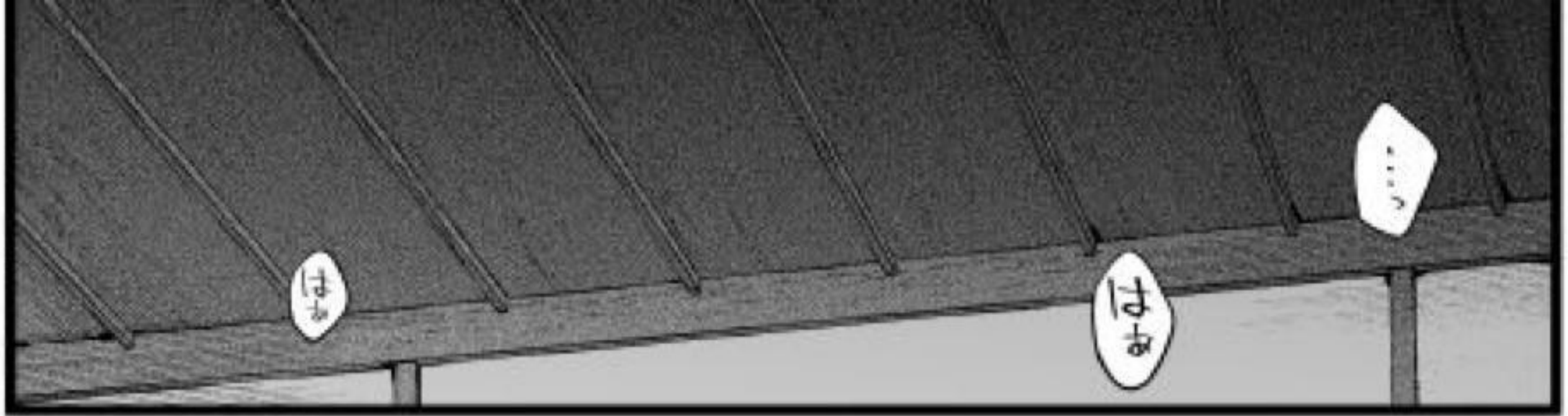
前は毎晩のように
呼び出されて
いたのに...

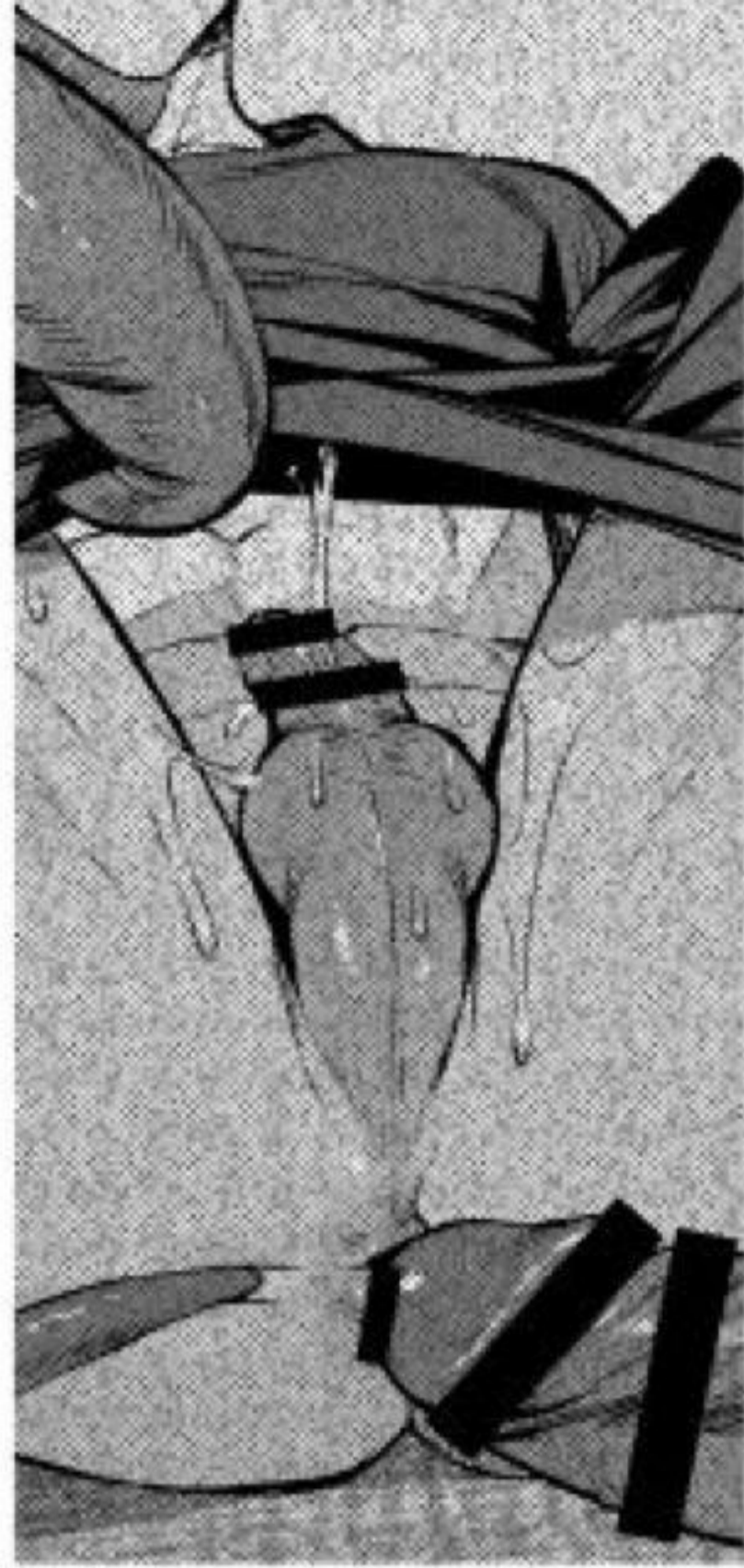


思えば
この部屋に入るのも
久しぶりだな



.....









何

してるんですか

な

あ



アセ

ちが

次の出陣に
ついて!

提案があつて
ここに!

アセ



ん



主!

これは

その...

フ
ッ
ッ







手放して
あげようと
思ったのに









自分では届かなかった
ところに...







はは
凄く歓迎ですね



ずっとかして



乱暴に扱われ
ながら喜んで
いませんか？



それとも
物としての
悲しい性でしょうか









